明けましておめでとうございます
2008年

ナースウェーブ（12月・仙台フォーラス前）

厚生協会だより

2008年1月21日
第 287 号

発　行
㈶宮城厚生協会
〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長澤清光

年頭のごあいさつ

宮城厚生協会理事長
水戸部　秀　利

広範な国民の世論形成と運動が決め手

昨年は、参院選での自公大敗、突然の安倍総理辞任や大連立騒動と政局激変の年でした。小泉以来の構造改革路線と安倍を中心とした靖国派の右傾化路線、国民世論に背を向けた大連合談合にノーを突きつけた国民の深部の力が表れました。今年は暴君ブッシュも過去の人となり、政権党や永田町にとっては混迷の年になりますが、私たち国民にとっては変革の可能性を秘めた年になります。可能性を現実のものにしていくためには、私たちも含めた広範な国民の世論形成と運動が決め手になります。是非、「守りから攻め」の年にしていきたいものです。

◇　◇　◇

しかし、医療福祉政策は、医療崩壊が叫ばれながらも、厳しい構造改革路線の延長線上にあります。後期高齢者医療制度は負担延期となるも、廃止ではなくその骨格は変わっていません。08年度診療報酬改訂も本体部分のマイナス改訂は押し止めましたが、同じ大きさのパイの配分を変えるものでしかありません。このような中で、中小病院や診療所の医療と経営は一層困難が増すことになります。

危機に瀕していた厚生協会の経営は、坂病院がリニューアル後のDPCや7：1看護など制度対応を機敏に進める中で赤字構造から抜け出し、07年度は念願の当期利益確保の可能性も見えてきました。各事業所・職場のがんばりと未だ3・0ヶ月にも届かない賞与に耐えてきた職員の辛抱の結果です。

「たたかい」の中から展望を見出す

今年は、診療報酬上困難が予測される長町、泉、古川の中小病院の中期的な展望を作り出すことが大きな課題となります。中小病院の困難は民医連だけでなく、全国共通の課題であり、地域医療を守るための根幹となる課題です。厚労省が提示する制度への対応だけでは、展望は見えません。共同組織、地域住民、自治体、医療団体と一緒になった「たたかい」の中から展望を見出す課題です。

私は気持ちは若いつもりでしたが、いつの間にか、還暦をむかえることになりました。体力・知力も衰えつつありますが、歴史の前進を期待しながらもう一踏ん張りするつもりです。よろしくお願いいたします。

第2回 宮城厚生協会医局同窓会開催

12月1日（土）の18時から松島町で昨年1月に続いて、37名（事務局等含む）が参加し、第2回宮城厚生協会医局同窓会が開催されました。

はじめに、同窓会会長の木村守和先生があいさつし、前回の状況、幹事の交代（吉岡孝志先生から佐々木泰夫先生に交代）、今回の日時設定（12月は各自いろいろ予定が重なり参加できない人もいた）を考慮し、より多くの人が参加できるよう次回は2010年1月最終土曜日あたりを予定したいことなどが報告され、参加してくださった先生方への謝辞が述べられました。

続いて、事務局より会計報告、参加できなかった先生方からのメッセージ（横山成紀先生からは絵手紙）等が紹介されました。

かたよりなくやろう！ 医療要求に全面的に応えるため

特別プレゼンテーションとして小幡篤先生（坂総合病院循環器科科長）より「坂総合病院循環器診療の現状～新病院建設時期の新たな展開」というテーマで講演がありました。

最初に、循環器歴代指導医の紹介（内地留学先、研修内容含め）がされ循環器科の変遷にふれると共に、新病院での私の願いとして①心核医学検査導入②心カテ室の機能向上③画像フルデジタル化が述べられ、新たな変化（進歩）についてプロジェクターで視覚的に新病院の施設状況等を含め紹介されました。心核医学検査導入によって無駄な検査がなくなったこと、医療情報システムの進歩として、電子カルテ導入、PACS画像システム、心電図システム運用、動画システム運用等が紹介されました。さらに、カテーテル血管形成術治療、末梢血管や腎動脈の拡張術など最先端技術の実践状況が報告がされました。

講演する小幡先生

そして、最後に、循環器科のめざすところは「かたよりなくやろう！　地域の医療要求に全面的に応えるため」と結びました。

医療の原点・心のふるさと 宮城厚生協会

懇親会では、初めに大窪豊県連会長があいさつし医師不足の中でのきびしい地域状況などが報告されました。また、水戸部秀利協会理事長があいさつし「もしみなさんが協会にいたらと考えると複雑な思いだ。みなさんの医療の原点・心のふるさとしての協会を守っていきます。どこへ行っても患者の気持ちを大切にし、全国各地で共にがんばりましょう。」と述べました。松浦真吾先生の乾杯発声後、参加された先生一人一人から近況報告や厚生協会への熱い思いなどが話されました（詳細は後日、同窓会会報に掲載予定）。

また、今回はスペシャルゲストとして参加いただいた鈴木寿さん（元菅原病院事務長）を囲みながら、菅原病院で研修された先生方となつかしく交流されていました。そして、二次会は前回同様、一部屋に集まりぎゅうぎゅうづめながら肩を寄せ合い、時間がストップしいつまでも語り合っていたいという感じで夜更けまで続きました。

坂総合病院と坂猶興医師（元院長）について

坂猶興先生記念誌編纂委員　本田　勝利

「平和、人権、医療を民衆とともに歩み求めた医師」

前身

坂総合病院の前身は、一九一二年（明治四五年）に坂定義医師が開設した私立塩釜病院でした。坂猶興は、叔父定義の死後、三七年（昭和一二年）に病院を継ぎました。

坂猶興は、戦前から、人権尊重、民衆のための医療、平和・民主主義を追求した医師でした。一九二二年に東北帝国大学医学部に入学しましたが、その翌年に仙台第二高等学校で、戦後の憲法の内容に大きな影響を与えた鈴木安蔵らが社会思想研究会を結成し、東北大学でも朝倉菊雄（後の島木建作）らが社会科学研究会を結成した際に、坂猶興はすすんで参加しました。二七年（昭和二年）に医学部衛生学教室助手となった坂猶興は、同年に結成された日本農民組合県連原ノ町支部で、無料診療をおこなって、支援しました。

弾圧・戦後

無産者医療同盟の活動発展が課題となったとき、坂猶興は中心となって、軽費診療活動を始め、三二年（昭和七年）二月に無産者医療同盟仙台支部（準備会）を発足させました。

しかし、労働者・農民に奉仕しようとする医療活動は、治安維持法による戦争推進体制のもとでは、弾圧の対象でした。三四年の一〇月に坂猶興は、逮捕され、裁判で懲役二年・執行猶予五年の刑を受け、医学部講師の職を辞しました。雌伏し、戦後を待ちました。

一九四五年の敗戦を迎えて日本共産党に入党し、一二月九日に坂病院内で日本共産党宮城地方委員会結成の会議を開き、四六年四月の戦後第一回の総選挙に立候補し落選でしたが、翌四七年の市会議員選挙では二位で当選し、医業を続けつつ三期市議をつとめました。

協会設立・平和運動

四九年には、坂病院の土地、建物、医療設備という資産を提供して宮城厚生協会を設立し、五五年には坂医師の提唱で、宮城民医連、東北民医連が結成されました。

坂猶興医師は、平和運動にも熱心にとりくみました。五〇年三月に世界平和擁護大会が核兵器禁止を訴えるストックホルム・アピールを発表し、その賛同署名が世界中の課題になった際にも、五二年のアジア・太平洋平和会議に向けたとりくみの際にも、役員として先頭に立ちました。五四年のビキニ水爆実験の事件の際には、塩釜港所属の多くの漁船も放射能被害を受けたもとで、坂医師が中心になって同年六月に塩釜市公民館で東北平和大会を開催しました。こうした平和運動が評価されて、坂医師の死後（五七年急逝）の五九年に世界平和評議会から「世界平和賞」の「銀メダル」が授与されました。人権と平和、民衆のための医療をめざした坂猶興医師から学ぶべきものは、きわめて多いと思います。

から新年の抱負

●仙台錦町診療所

青年期として節目の年に

事務長　金田　基

新年あけましておめでとうございます。

県連の1次長計に基づいて「産業医学センター」を併設する診療所として現地に開設されたのが84年ですので、今年は人間でいうところの「年男(女?)」にあたります。

この間、広瀬俊雄所長以下、職員一丸となって「働くもののいのちと健康をまもる」活動に取り組んできました。細倉鉱山閉山後の振動病・じん肺患者の掘り起こしの取り組みは、当該裁判闘争での勝利にとどまらず、トンネルじん肺救済の取り組みへと引き継がれ、そして今またアスベスト被害救済の取り組みへとつながっています。過労死・過労自殺に関わる事例相談も後を絶ちません。

こう書いていくと、いかにも「労災・職業病とたたかう特殊な診療所」と思われかねないのですが、その雰囲気は外観からしてレトロな「町場の医院」さながらですし、待合室には呼吸器感染症の患者さんに腰痛・肩こり(頸肩腕障害)の患者さん、慢性疾患の患者さんと、仙台弁(?)も飛び交う、ごく普通の「診療所」の顔も持っています。

◇　◇　◇

昨年はうれしい事に、当診療所で「産業医学」の研修を経験した若手の先生の中からお二人の先生に、将来とも産業医学の分野に軸足を置いてがんばっていきたいと決意していただきました。築〇十余年の賃借物件の建物も大分くたびれて、次のことを考えなければならない時期にきています。

診療所・センターの歴史としては青年期に入ります。いろんな意味で節目の年になる。そんな予感と期待にあふれている仙台錦町診療所です。

本年もよろしくお願いいたします。(以上、こちらも年男の事務長でした)

●若林クリニック

果たすべき役割を明確にしがんばる

事務長　加藤　隆雄

新年明けましておめでとうございます。

緑豊かで田んぼと畑に囲まれた若林区下飯田。ここに若林クリニックがあります。2000年7月に開設され満7歳となり、8回目の新年を迎えました。

2006年4月、開設時からの町田幸雄前所長より平尾良親所長が後任のバトンを受け、所長を先頭に日々奮闘しています。クリニック職員は、医師(所長)1名、看護師2名、事務2名の計5名。時折、パートの看護師さんに応援をいただき日常診療をしています。厚生協会を代表するフレッシュピチピチの職員ぞろい(?)です。

診療圏内は農業を営む世帯が多く、来院される患者さんの7割が国保加入世帯。年齢構成は70歳以上が全体の4割(65歳以上が全体の6割を占める)。高齢者の比率が高く、また女性の来院者が6割を超える診療所です。

このような地域ですから、4月から本格実施される医療制度改悪と患者負担増は、高齢者の「命とくらし」をさらに直撃することは必至です。

今年は、共同組織の皆さんと協力しながら地域での活動をさらに強化し、そして経営も安定させることが求められる年です。近隣地域で開業医が増える中、若林クリニックが果たすべき役割を明確にしつつ、職員一同がんばります。今年もよろしくお願いいたします。

事業所のみなさん

●くりこまクリニック

地域に根ざし、取り組みを一層強める

事務長　佐藤　徹

新年あけましておめでとうございます

この冬は暖冬とは言われていますが、栗駒嵐は厳しいものがあります。積雪は今のところ数回で本格的な雪かきはいまだなく、物足りなさを感じている反面、雪が少ないのは何よりです。

11～12月はインフルエンザの予防注射、慢患やじん肺の定期検査で、外来は1年間のなかでもっとも忙しい時期で、カゼや胃腸炎の流行ともあいまって更に忙しさに拍車をかけました。

昨年は友の会との協同した取り組みのなかで、社保平和運動が大きく前進した年でもあり6～7月の運動強化月間では、後期高齢者医療制度をめぐる対話を中心に署名、地域訪問活動など数々の目標数を上回る成果をあげることができました。

平和運動では、友の会社保委員会が九条の会結成にむけて地域に呼びかけた結果、友の会会員、元教師、住職、市議会議員など61人が呼びかけ人となり11月17日「くりこま九条の会」が結成されました。現在入会者は200人にもなり栗原地域での平和運動の拠点として期待が高まっています。

今年も昨年同様、政治や経営をめぐる状況は厳しさを増すことは必至です。社会保障の充実や平和を守る運動、地域で抱えている課題、経営の安定化など、昨年の運動の経験を活かし、地域に根ざした取り組みを、一層強めていきたいと思います。

●中新田民主医院

全職員力をあわせ前進の年に

事務課長　我妻　純

昨年は効率化を追求した年でした。

ひとつには施設の改善。10数年そのままであった玄関の診療案内を立て替えたり、内科を前面に出した大きい看板を設置したり、それまで待合室の中で剥き出しの状態で行なっていた問診をパーテーションで区切りました。医師が、高齢で耳が遠い患者様を何回も呼んでいたのを診察室にマイクを設置しました。

また、放射線技師などの他事業所からの支援のスリム化を図りました。

通所リハでは今年度に入ってから少しずつ利用者様を増やしており、多いときには20名の利用者様を抱えながら、「百歳を祝う会」「お花見会」「運動会」「クリスマス会」など、デイケアの職員のみならず、ヘルパーさん・友の会役員さんなど多くの皆さんのお力をお借りして楽しい行事を開催し、参加者もいっぱいの笑顔で元気をもらいました。

10月には数年ぶりに黒字となり、翌月も連続して黒字を生み出しました。

2008年は全職員で力をあわせ更に前進したいと思います。

さわやかエッセイ

歩くことと乗ること

古川民主病院歯科クリニック　歯科医師　河内満彦

私は歩くことと乗り物に乗ることが大好きです。

ただひたすら歩くこと

津軽海峡線の営業運転前に青函トンネル内を歩いて海峡を渡る「青函ウォーク」なるイベントに競争率19・3倍の難関を乗り越えて当選し、竜飛海底駅から吉岡海底駅までの約25kmを8時間かけて踏破したことがあります。トンネルの中は「暗いよ、狭いよ、怖いよ!」の面堂終太郎には歩けなかったことでしょう。北海道側からの参加者と海面下240mの本坑内で擦れ違った時は、映画「八甲田山」を思い出し感無量でした。また、古川民主病院への入職当初、仙台発の最終新幹線にタッチの差で乗り遅れ、在来線に飛び乗って小牛田駅で降りたところ古川行きの列車が既に無いことが発覚し、「タクシーに乗るのもなんだなぁ…。よし!歩いてみよう!」ということになり病院まで真夜中の国道を歩いたことがあります。1時間40分かかりましたが、タクシー代は浮くは運動にはなるはで一石二鳥でした。

青函トンネルウォーク(1987年7月31日開催)にて。本坑中央部付近、津軽海峡海面下240mの世界

「お尻の痛くなる長距離バスに乗ること」

国内の移動では長距離バスをよく使います。仙台→大阪、大阪→鹿児島間は各々12時間程度でしたが、東京→福岡間は14時間20分かかりました。東京→名古屋は6時間程のはずでしたが、東名高速の集中工事に当たってしまい倍の12時間かかったこともありました。車内では、寝るか窓の外を眺めるか妄想を膨らませるしかやることがありません。お尻や腰の痛みをこらえつつ乗っているのもそれはそれで野趣に富んでいて面白いものです。(本当か?)

オタクだらけの開業一番電車、廃線最終電車に乗ること

先日開業した「仙台空港アクセス鉄道」の一番電車には家内を連れて乗ってみました。驚いたのは、ポールの先にくくり付けたマイクで車内放送を録音している電車オタクがいたことです。鉄ちゃんでもなんでもない家内が、鉄道ファン代表としてTVのインタビューを受けていたのが笑えました。同じ月には「くりはら田園鉄道」の最終列車にも乗ってみました。開業の喜びとは違い、雨の中での最終運行セレモニーは物悲しかったです。そういえば、仙台市地下鉄南北線の開業一番電車にも一駅区間だけ乗りました。始発から終点までの全区間を乗る必要はありません。「記念すべき電車に乗った!」ことが大事なのです。次なる標的は地下鉄東西線の一番電車です。どなたか一番電車一駅間ツアーにご一緒しませんか?

キタ―――(゜∀゜)―――!!!!!